

心理的虐待の実態 [II]

—— 大阪コミュニティ調査報告書 ——

人間社会学科 石川義之

邦文アブストラクト (抄録) :

本稿 (I を含む) は、大阪市在住の 20 歳代の男女を対象にした、心理的 (情緒的) 虐待に関するアンケート調査の単純集計結果の報告である。標本抽出法は層化 2 段階抽出法に基づく無作為抽出法、調査方法は自計式調査票法による郵送調査法、調査期間は 2004 年 11 月～2005 年 3 月、調査対象者 2,000 人に対して有効回答数 147 人、有効回答率 7.35% であった。

本稿 (I を含む) を構成する章立ては次のようになっている。0. 序論, 1. 調査実施の概要, 2. 回答者の属性, 3. 質問文と回答状況—単純集計—。

本稿 (I を含む) における分析から得られた主な知見は以下のとおりである。

1. 被害経験の有無; 心理的虐待の被害経験がある者の比率 81.0%, ない者の比率 19.0%。
2. 被害経験の多寡; 被害経験がない者の比率 19.0%, 少しある者の比率 41.5%, 多くある者の比率 39.5%。
3. 被害を受けた時期; 子ども時代 86.9%, 成人期 13.1%。

単純集計以上の統計分析法, すなわち, カイ 2 乗検定, t 検定, 分散分析, 多変量解析等による分析結果は別の機会に報告する。

3-3. 最も不快だった経験

IV. [最も不快だった経験]

質問項目 III. [親子関係における経験] において, 1. 頻繁にある 2. ときどきある, に一つでも○をされた方にお尋ねします。(1 つも○をされなかった方は, 次の V へお進み下さい)

あなたがこれまで経験した III. [親子関係における経験] の項目の中で最も不快だったり, 最も傷ついた経験を一つだけ思い浮かべて下さい。それについて以下の質問にお答え下さい。

A III. [親子関係における経験] の項目の中で最も不快だったり・最も傷ついた経験とは, どの項目でしたか? III の 1~18 の数字でお答え下さい。()

2-3-1-1 III [親子関係における経験]の項目の中で最も不快な・傷ついた経験

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
1. 機嫌が悪い時、物にあたったりする	5	3.4	5.1	5.1
2. 話を聞いて欲しい時、聞いてもらえない	8	5.4	8.1	13.1
3. 部屋に勝手に入ったり、持ち物をチェックする	6	4.1	6.1	19.2
5. 行動を規制される	7	4.8	7.1	26.3
6. 親が暴力を振るう場面を見る	12	8.2	12.1	38.4
8. 努力に対して誉めてくれない	4	2.7	4.0	42.4
9. 家族との約束事を突然中止する	2	1.4	2.0	44.4
10. 常に怒鳴ったりののしったりしている	6	4.1	6.1	50.5
12. 他人と自分を比較され責められる	13	8.8	13.1	63.6
13. 人前で侮辱する	3	2.0	3.0	66.7
14. 存在を否定する言葉をかけられる	2	1.4	2.0	68.7
15. 本来大人がすべき役割を押し付ける	2	1.4	2.0	70.7
16. 養育者の夢を叶えるため、過剰な期待をかける	8	5.4	8.1	78.8
17. 養育者が自分自身の身体を傷つけたりすることによって、脅す	2	1.4	2.0	80.8
18. その他の、養育者との関係における不快な・傷ついた経験	19	12.9	19.2	100.0
合計	99	67.3	100.0	
欠損値				
非該当	27	18.4		
無回答	21	14.3		
合計	48	32.7		
合計	147	100.0		

質問Ⅲ「親子関係における経験」において「ある」（「頻繁にある」+「ときどきある」）と回答した者に、受けた経験の中で「最も不快だったり、最も傷ついた」経験を1つだけ選んでもらい、その選んだ経験について10個の設問を行った。

まず、その「最も不快だったり、最も傷ついた」経験はどの経験であるかを尋ねた。結果は、表2-3-1-1に示すとおりである。

最も多かったのは「18. その他の、養育者との関係における不快な・傷ついた経験」で19.2%、以下「12. 他人と自分を比較され責められる」13.1%、「6. 親が暴力を振るう場面を見る」12.1%とつづいている。「4. 理由なしに叱る」「7. 大切にしているものを故意に傷つける」「11. 家族以外の人との交友関係を持たせようとしない」の3項目は0%であった。

表2-3-1-2 「最も不快だったり、最も傷ついた」経験として選択された比率

経験の種類	経験者数(人)	選択者数(人)	選択率(%)
1. 機嫌が悪い時、物にあたりする	48	5	10.4
2. 話を聞いて欲しい時、聞いてもらえない	44	8	18.2
3. 部屋に勝手に入ったり、持ち物をチェックする	61	6	9.8
4. 理由なしに叱る	21	0	0.0
5. 行動を規制される	39	7	17.9
6. 親が暴力を振るう場面を見る	50	12	24.0
7. 大切にしているものを故意に傷つける	5	0	0.0
8. 努力に対して誉めてくれない	41	4	9.8
9. 家族との約束事を突然中止する	28	2	7.1
10. 常に怒鳴ったりのしつたりしている	32	6	18.8
11. 家族以外の人との交友関係を持たせようとしな	4	0	0.0
12. 他人と自分を比較され責められる	61	13	21.3
13. 人前で侮辱する	20	3	15.0
14. 存在を否定する言葉をかけられる	19	2	10.5
15. 本来大人がするべき役割を押し付ける	18	2	11.1
16. 養育者の夢を叶えるため、過剰な期待をかける	32	8	25.0
17. 養育者が自分自身の身体を傷つけたりすることによって、脅す	7	2	28.6
18. その他の、養育者との関係における不快な・傷ついた経験	37	19	51.4
合 計	567	99	17.5

問Ⅲの18の被害項目ごとに、当該項目の被害経験者中当該項目を「最も不快な・傷ついた」被害として選択した者の割合（選択率＝被害項目ごとの「最も不快な・傷ついた」被害として選択した者の数／被害経験者数×100）を算出して表示したのが表2-3-1-2である。

最も選択率が高いのが「18. その他の、養育者との関係における不快な・傷ついた経験」で51.4%、以下「17. 養育者が自分自身の身体を傷つけたりすることによって、脅す」28.6%、「16. 養育者の夢を叶えるため、過剰な期待をかける」25.0%、「6. 親が暴力を振るう場面をみる」24.0%、「12. 他人と自分を比較され責められる」21.3%とつづく。

「4. 理由なしに叱る」「7. 大切にしているものを故意に傷つける」「11. 家族以外の人との交友関係を持たせようとしな」の3項目は選択率0%であった。

B その項目(A)の経験があったのは主にいつの頃ですか。(○は1つ)

1. 小学校入学以前(0～6歳) 2. 小学校低学年(7～9歳) 3. 小学校高学年(10～12歳)
4. 中学校時(13～15歳) 5. 16～17歳(高校時) 6. 18歳以上

表2-3-2 最も不快な・傷ついた被害(A)の経験の時期

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	小学校入学以前(0~6歳)	4	2.7	3.7	3.7
	小学校低学年(7~9歳)	24	16.3	22.0	25.7
	小学校高学年(10~12歳)	16	10.9	14.7	40.4
	中学校時(13~15歳)	29	19.7	26.6	67.0
	16~17歳(高校時)	18	12.2	16.5	83.5
	18歳以上	18	12.2	16.5	100.0
	合計	109	74.1	100.0	
欠損値	非該当	27	18.4		
	無回答	11	7.5		
	合計	38	25.9		
合計	147	100.0			

「最も不快な・傷ついた経験」の時期を、全体として見ると、「中学校時(13~15歳)」が最も多く26.6%、以下「小学校低学年(7~9歳)」22.0%、「16~17歳(高校時)」「18歳以上」各16.5%とつづく。

「中学校時」までで67.0%と過半に達し、18歳未満の「子ども時代」の比率は83.5%に上っている。つまり、「最も不快な・傷ついた経験」の8割強が「子ども時代」に受けた被害経験によって占められていることになる。

C その項目(A)の相手は誰ですか。6,7の番号に○を付けた方は、具体的にどのような人物であったかを、()の中に記入して下さい。

2人以上の相手がいる場合、7の番号を○で囲み、()の中にその相手たちがどのような人かをご記入下さい。(○は1つ)

- | | | | | |
|----------------|-------|-------|-------|----------|
| 1. 実父 | 2. 実母 | 3. 祖父 | 4. 祖母 | 5. きょうだい |
| 6. その他の養育者 () | | | | |
| 7. 複数の養育者 () | | | | |

表2-3-3 最も不快な・傷ついた経験(A)の相手

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	実父	33	22.4	30.8	30.8
	実母	57	38.8	53.3	84.1
	祖父	1	.7	.9	85.0
	祖母	1	.7	.9	86.0
	きょうだい	3	2.0	2.8	88.8
	その他の養育者	3	2.0	2.8	91.6
	複数の養育者	9	6.1	8.4	100.0
	合計	107	72.8	100.0	
欠損値	非該当	27	18.4		
	無回答	13	8.8		
	合計	40	27.2		
合計	147	100.0			

「最も不快な・傷ついた経験」の相手(加害者)については、「実母」が最も多く53.3%と過半に達し、次いで「実父」の30.8%となっている。この両方で84.1%を占めている。

D 同じ相手から A（この最も不快だったり・最も傷ついた経験）のことを何回くらいされましたか。（○は1つ）

1. 1回だけ 2. 2～5回 3. 6～10回 4. 11～20回 5. 21回以上

表2-3-4 同じ相手からA(最も不快だったり・最も傷ついた経験)を受けた回数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1回だけ	18	12.2	17.0	17.0
	2～5回	36	24.5	34.0	50.9
	6～10回	23	15.6	21.7	72.6
	11～20回	10	6.8	9.4	82.1
	21回以上	19	12.9	17.9	100.0
	合計	106	72.1	100.0	
欠損値	非該当	27	18.4		
	無回答	14	9.5		
	合計	41	27.9		
合計		147	100.0		

「最も不快な・傷ついた経験」を同じ相手（加害者）から受けた回数については、「2～5回」が最も多く34.0%，以下「6～10回」21.7%，「1回だけ」「21回以上」各17.9%とつづく。「11～20回」9.4%，「21回以上」17.9%で、「11回以上」が27.3%を占めている。

E A（この最も不快な・傷ついた経験）はどのくらい継続しましたか。（断続的なものを含む。○は1つ）

1. 1回だけ 2. 1週間未満 3. 1週間～1ヶ月未満 4. 1ヶ月～6ヶ月未満 5. 6ヶ月～2年未満
6. 2年～5年未満 7. 5年～10年未満 8. 10年以上

表2-3-5 A(最も不快な・傷ついた経験)の継続期間

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1回だけ	24	16.3	23.1	23.1
	1週間未満	3	2.0	2.9	26.0
	1週間～1ヶ月未満	6	4.1	5.8	31.7
	1ヶ月～6ヶ月未満	7	4.8	6.7	38.5
	6ヶ月～2年未満	12	8.2	11.5	50.0
	2年～5年未満	26	17.7	25.0	75.0
	5年～10年未満	17	11.6	16.3	91.3
	10年以上	9	6.1	8.7	100.0
	合計	104	70.7	100.0	
欠損値	無回答	16	10.9		
	非該当	27	18.4		
	合計	43	29.3		
合計		147	100.0		

「最も不快な・傷ついた経験」が継続した期間（断続的なものを含む）については、「2年～5年未満」が最も多く25.0%，以下「1回だけ」23.1%，「5年～10年未満」16.3%，「6ヶ月～2年未満」11.5%とつづく。「2年以上」が50.0%を占め、中でも「10年以上」が8.7%に上っていることが注目される。

F あなたは、A（この最も不快な・傷ついた経験）があった時にどのように対処されましたか。
 （○はいくつでも）

1. その時、そのことがなかったかのように思い込むようにした
2. その場から離れた
3. そのことが不快であると、相手に直接伝えた
4. 強く反論した
5. 相手が望むように自分を変化させて、その場の事態をおさめた
6. 何もしなかった
7. その他の対処（

表 2-3-6 最も不快な・傷ついた経験を受けた時の対処法

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
その時、そのことがなかったかのように思い込むようにした	IV. F_1	8	5.3	7.5
その場から離れた	IV. F_2	25	16.7	23.4
そのことが不快であると、相手に直接伝えた	IV. F_3	23	15.3	21.5
強く反論した	IV. F_4	32	21.3	29.9
相手が望むように自分を変化させて、その場の事態をおさめた	IV. F_5	16	10.7	15.0
何もしなかった	IV. F_6	28	18.7	26.2
その他の対処	IV. F_7	18	12.0	16.8
		-----	-----	-----
	Total responses	150	100.0	140.2

40 missing cases: 107 valid cases

「最も不快な・傷ついた経験を受けた時の対処法」としては、「強く反論した」が最も多く回答総数の21.3%、回答者107名中の29.9%を占めた。以下、「何もしなかった」18.7%、26.2%、「その場から離れた」16.7%、23.4%、「そのことが不快であると、相手に直接伝えた」15.3%、21.5%とつづく。

「そのことがなかったかのように思い込む」「その場から離れた」「自分を変化させて、その場の事態をおさめた」「何もしなかった」を「消極的対応」、 「そのことが不快であると、相手に直接伝えた」「強く反論した」を「積極的対応」と分類すれば、回答総数に占める比率は「消極的対応」51.3%、「積極的対応」36.7%となり、「消極的対応」が「積極的対応」を上回る。

G あなたは、これまで A（この最も不快な・傷ついた経験）を、誰かに話したり、相談したりしたことはありますか。（○はいくつでも）

「13. その他」を選んだ場合は、（ ）の中に具体的にご記入下さい。

1. 父に話した
2. 母に話した
3. きょうだいに話した
4. 親・きょうだい以外の親族に話した
5. 友人・知人に話した
6. 学校の先生に相談した
7. 児童相談所に相談した
8. 警察に相談した
9. その他の公的機関（保健所，福祉事務所など）に相談した
10. 医師・カウンセラーなどに相談した
11. 電話相談に相談した
12. 自助グループなどの場で話した
13. その他の人や機関などに相談した（ ）
14. 話したり，相談したりしたことはない

表 2-3-7 相談の有無と相談相手

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
父に話した	IV. G_ 1	7	4.7	6.7
母に話した	IV. G_ 2	23	15.5	21.9
きょうだいに話した	IV. G_ 3	23	15.5	21.9
親・きょうだい以外の親族に話した	IV. G_ 4	7	4.7	6.7
友人・知人に話した	IV. G_ 5	37	25.0	35.2
学校の先生に相談した	IV. G_ 6	3	2.0	2.9
児童相談所に相談した	IV. G_ 7	1	.7	1.0
医師・カウンセラーなどに相談した	IV. G_10	4	2.7	3.8
その他の人や機関などに相談した	IV. G_13	2	1.4	1.9
話したり，相談したりしたことはない	IV. G_14	41	27.7	39.0
		-----	-----	-----
	Total responses	148	100.0	141.0

42 missing cases: 105 valid cases

これまで「最も不快な・傷ついた経験」のことを、誰かに話したり、相談したりしたことがあるか、という質問については、「話したり、相談したりしたことはない」が回答総数の27.7%、105人の回答者中39.0%を占めていた。残りの61.0%の者は、誰かに話したり相談したりしている。

話したり相談したりした場合は、「友人・知人に話した」が最も多く回答総数の25.0%、回答者の35.2%を数え、以下「母に話した」「きょうだいに話した」それぞれ回答総数の15.5%、回答者の21.9%、「父に話した」「親・きょうだい以外の親族に話した」各回答総数の4.7%、回答者の6.7%とつづいている。

「児童相談所」「警察」「その他の公的機関」「医師・カウンセラー」「電話相談」「自助グループ」という公的な機関・人物に相談したのは、合わせて回答総数の3.4%、回答者の4.8%にすぎなかった。

H あなたは、A（この最も不快な・傷ついた経験）があった時、どの程度、動揺しましたか。

（○は1つ）

1. 極度に動揺した 2. とても動揺した 3. やや動揺した 4. あまり動揺しなかった 5. 全く動揺しなかった

表2-3-8 A（最も不快な・傷ついた経験）があった時、どの程度、動揺したか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	極度に動揺した	15	10.2	14.0	14.0
	とても動揺した	38	25.9	35.5	49.5
	やや動揺した	30	20.4	28.0	77.6
	あまり動揺しなかった	15	10.2	14.0	91.6
	全く動揺しなかった	9	6.1	8.4	100.0
	合計	107	72.8	100.0	
欠損値	非該当	27	18.4		
	無回答	13	8.8		
	合計	40	27.2		
	合計	147	100.0		

「最も不快な・傷ついた経験」に遭った時、どの程度、動揺したかという質問に対しては、「とても動揺した」が最も多く35.5%、次いで「やや動揺した」の28.0%となっている。

「極度に動揺」「とても動揺」「やや動揺」の3つを合わせた「動揺」が77.6%を占め、「あまり動揺しなかった」と「全く動揺しなかった」とを合わせた「動揺しなかった」は22.4%にすぎなかった。

I A（この最も不快な・傷ついた経験）は、あなたのこれまでの人生にどの程度の影響を及ぼしたと思いますか。（○は1つ）

1. 大きな影響を及ぼした 2. かなりの影響を及ぼした 3. あまり影響を及ぼさなかった
4. 全く影響を及ぼさなかった

表2-3-9 A(最も不快な・傷ついた経験)は、あなたのこれまでの人生にどの程度の影響を及ぼしたか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	大きな影響を及ぼした	14	9.5	13.0	13.0
	かなりの影響を及ぼした	25	17.0	23.1	36.1
	あまり影響を及ぼさなかった	51	34.7	47.2	83.3
	全く影響を及ぼさなかった	18	12.2	16.7	100.0
	合計	108	73.5	100.0	
欠損値	非該当	27	18.4		
	無回答	12	8.2		
	合計	39	26.5		
合計		147	100.0		

「この最も不快な・傷ついた経験」は、回答者のこれまでの人生にどの程度の影響を及ぼしたと思うかという質問に対しては、「あまり影響を及ぼさなかった」が最も多く47.2%、次いで「かなりの影響を及ぼした」の23.1%となっている。

「大きな影響」と「かなりの影響」とを合わせた「影響を及ぼした」は36.1%、「あまり影響を及ぼさなかった」と「全く影響を及ぼさなかった」とを合わせた「影響を及ぼさなかった」は63.9%となっている。

J 養育者からこの最も不快で傷ついた経験のようなことを受けた時にどのような対応が必要だと思いますか。いま現在、最も必要性を痛感されていることを、次の中から3つまで選んで○を付けて下さい。

1. 特に対応の必要はない
2. 地域などの周囲に、親身になって話を聞いてくれる人がいる
3. 子どもが精神的に傷つけられている実態を明らかにして、社会的な関心を高める
4. 子どもの頃から、学校や家庭でこの問題への意識啓発を行う
5. いつでも相談できる、電話や窓口を充実させる
6. 心の回復を支援する場を設置する
7. 子どもの権利や福祉を守る法律、制度を充実させる
8. その他(具体的に：)

表 2-3-10 必要と思う対応

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
特に対応の必要はない	IV. J_1	31	17.0	29.2
地域などの周囲に、親身になって話を聞いてくれる人がいる	IV. J_2	43	23.6	40.6
子どもが精神的に傷つけられている実態を明らかにして、社会的な関心を高める	IV. J_3	19	10.4	17.9
子どもの頃から、学校や家庭でこの問題への意識啓発を行う	IV. J_4	19	10.4	17.9
いつでも相談できる、電話や窓口を充実させる	IV. J_5	20	11.0	18.9
心の回復を支援する場を設置する	IV. J_6	21	11.5	19.8
子どもの権利や福祉を守る法律、制度を充実させる	IV. J_7	18	9.9	17.0
その他	IV. J_8	11	6.0	10.4
		-----	-----	-----
	Total responses	182	100.0	171.7

41 missing cases: 106 valid cases

「最も不快な・傷ついた経験」の類の経験に関してどのような対応が必要だと思うかという質問に対しては、「親身になって話を聞いてくれる人がいること」が最も多く回答総数中 23.6%、回答者数中 40.6%、以下「特に対応の必要はない」17.0%、29.2%、「心の回復を支援する場を設置」11.5%、19.8%、「電話や窓口を充実」11.0%、18.9%とつづく。

「特に対応の必要はない」が回答者総数中 29.2%を占める反面、「何らかの対応の必要」を痛感している回答者が 70.8%ほどいることになる。

3-4. 親子関係に対する考え

V. [親子関係に対する考え]

あなたは、子どもに対する養育者の以下の行動が、子どもに対する虐待にあたると思いますか？

以下の質問項目のそれぞれについて、あてはまる数字に○を付けて下さい。
(○は1つ)

虐待にあたる
とは思わない
あまり思わない
少し思う
虐待にあたると
思う

1. 機嫌が悪いときに、子どもの目の前で、机などのものにあたる …… 1-2-3-4
2. 子どもが話しかけたときに、無視して耳を貸さない …… 1-2-3-4
3. 子どもの部屋に勝手に入ったり、勝手に持ち物をチェックしたりする …… 1-2-3-4
4. 理由なしに、または理由を伝えずに子どもを叱る …… 1-2-3-4
5. 子どもの仲のいい友達について、「あの子と遊んではダメ」などと言う …… 1-2-3-4
6. 子どもの目の前で、大人同士で暴力を振るい、けんかをする …… 1-2-3-4
7. 子どもが大切にしているおもちゃやペットを、わざと傷つける …… 1-2-3-4
8. 子どものがんばりに対して、「がんばったね」などのねぎらいの言葉をかけない …… 1-2-3-4
9. 子どもが楽しみにしている家族の約束事（旅行・動物園・遊園地に行くなど）を養育者の気分により急に取りやめる …… 1-2-3-4
10. 子どもを常に怒鳴ったりののしったりする …… 1-2-3-4
11. 家族以外の交友関係をもたせようとしめない …… 1-2-3-4
12. 他人（友達・きょうだい・親戚など）と比較して、劣る点を責める …… 1-2-3-4
13. 子どもを人前で侮辱する …… 1-2-3-4
14. 子どもに対して、「お前なんて…」というような、存在を否定するような言葉をかける …… 1-2-3-4
15. 本来、大人が果たすべき役割（家事・育児など）を押しつけることがある …… 1-2-3-4
16. 自分の果たせなかった夢を子どもを使って叶えようとし、子どもに過剰な期待をかける …… 1-2-3-4
17. 養育者が、「自殺してやる」と言ったり、養育者自身の身体を傷つけたりして子どもを脅す …… 1-2-3-4

Ⅲ. 「親子関係における経験」と同じ項目について、それぞれの項目が「虐待」にあたると思うかどうかを、「虐待にあたると思う」「少し思う」「あまり思わない」「虐待にあたるとは思わない」の4件法で尋ねた。単純集計の結果は以下のとおりである。

表2-4-1 機嫌が悪いときに、子どもの目の前で、机などのものにあたる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
虐待にあたると思う	12	8.2	8.2	8.2
少し思う	79	53.7	53.7	61.9
あまり思わない	36	24.5	24.5	86.4
虐待にあたるとは思わない	20	13.6	13.6	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「少し思う」が最も多く 53.7%、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は 61.9%であった。「虐待にあたるとは思わない」は 13.6%であった。

表2-4-2 子どもが話しかけたときに、無視して耳を貸さない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	52	35.4	35.4	35.4
少し思う	68	46.3	46.3	81.6
あまり思わない	22	15.0	15.0	96.6
虐待にあたるとは思わない	5	3.4	3.4	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「少し思う」が最も多く 46.3%、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は 81.6%であった。「虐待にあたるとは思わない」は 3.4%にすぎなかった。

表2-4-3 子どもの部屋に勝手に入ったり、勝手に持ち物をチェックしたりする

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	17	11.6	11.6	11.6
少し思う	64	43.5	43.5	55.1
あまり思わない	51	34.7	34.7	89.8
虐待にあたるとは思わない	15	10.2	10.2	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「少し思う」が最も多く 43.5%、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は 55.1%であった。「虐待にあたるとは思わない」は 10.2%であった。

表2-4-4 理由なしに、または理由を伝えずに子どもを叱る

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	98	66.7	67.1	67.1
少し思う	41	27.9	28.1	95.2
あまり思わない	6	4.1	4.1	99.3
虐待にあたるとは思わない	1	.7	.7	100.0
合計	146	99.3	100.0	
欠損値 無回答	1	.7		
合計	147	100.0		

「虐待にあたると思う」が最も多く 67.1%、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は 95.2%に上った。「虐待にあたるとは思わない」は 0.7%にすぎなかった。

表2-4-5 子どもの仲のいい友達について、「あの子と遊んではダメ」と言う

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	25	17.0	17.1	17.1
少し思う	63	42.9	43.2	60.3
あまり思わない	46	31.3	31.5	91.8
虐待にあたるとは思わない	12	8.2	8.2	100.0
合計	146	99.3	100.0	
欠損値 無回答	1	.7		
合計	147	100.0		

「少し思う」が最も多く 43.2%、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は 60.3%であった。「虐待にあたるとは思わない」は 8.2%であった。

表2-4-6 子どもの目の前で、大人同士で暴力を振るい、けんかをする

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	49	33.3	33.3	33.3
少し思う	60	40.8	40.8	74.1
あまり思わない	27	18.4	18.4	92.5
虐待にあたるとは思わない	11	7.5	7.5	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「少し思う」が最も多く 40.8%、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は 74.1%であった。「虐待にあたるとは思わない」は 7.5%であった。

表2-4-7 子どもが大切にしているおもちゃやペットを、わざと傷つける

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	123	83.7	83.7	83.7
少し思う	20	13.6	13.6	97.3
あまり思わない	3	2.0	2.0	99.3
虐待にあたるとは思わない	1	.7	.7	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「虐待にあたると思う」が最も多く 83.7%、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は 97.3%に上った。「虐待にあたるとは思わない」は 0.7%にすぎなかった。

表2-4-8 子どものがんばりに対して、「がんばったね」などのねぎらいの言葉をかけない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	24	16.3	16.3	16.3
少し思う	78	53.1	53.1	69.4
あまり思わない	34	23.1	23.1	92.5
虐待にあたるとは思わない	11	7.5	7.5	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「少し思う」が最も多く 53.1%、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は 69.4%であった。「虐待にあたるとは思わない」は 7.5%であった。

表2-4-9 子どもが楽しみにしている家族の約束事(旅行・動物園・遊園地に行くなど)を養育者の気分により急に取りやめる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	24	16.3	16.3	16.3
少し思う	70	47.6	47.6	63.9
あまり思わない	40	27.2	27.2	91.2
虐待にあたるとは思わない	13	8.8	8.8	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「少し思う」が最も多く 47.6%、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は 63.9%であった。「虐待にあたるとは思わない」は 8.8%であった。

表2-4-10 子どもを常に怒鳴ったりのしつたりする

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	117	79.6	79.6	79.6
少し思う	28	19.0	19.0	98.6
あまり思わない	1	.7	.7	99.3
虐待にあたるとは思わない	1	.7	.7	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「虐待にあたると思う」が最も多く79.6%、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は98.6%に上った。「虐待にあたるとは思わない」は0.7%にすぎなかった。

表2-4-11 家族以外の交友関係をもたせようとししない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	81	55.1	55.1	55.1
少し思う	49	33.3	33.3	88.4
あまり思わない	14	9.5	9.5	98.0
虐待にあたるとは思わない	3	2.0	2.0	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「虐待にあたると思う」が最も多く55.1%、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は88.4%に上った。「虐待にあたるとは思わない」は2.0%にすぎなかった。

表2-4-12 他人(友達・きょうだい・親戚など)と比較して、劣る点を責める

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	66	44.9	44.9	44.9
少し思う	61	41.5	41.5	86.4
あまり思わない	18	12.2	12.2	98.6
虐待にあたるとは思わない	2	1.4	1.4	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「虐待にあたると思う」が最も多く44.9%、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は86.4%に上った。「虐待にあたるとは思わない」は1.4%にすぎなかった。

表2-4-13 子どもを人前で侮辱する

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	91	61.9	61.9	61.9
少し思う	49	33.3	33.3	95.2
あまり思わない	6	4.1	4.1	99.3
虐待にあたるとは思わない	1	.7	.7	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「虐待にあたると思う」が最も多く61.9%、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は95.2%に上った。「虐待にあたるとは思わない」は0.7%にすぎなかった。

表2-4-14 子どもに対して、「お前なんて…」というような、存在を否定するような言葉をかける

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	125	85.0	85.0	85.0
少し思う	20	13.6	13.6	98.6
あまり思わない	2	1.4	1.4	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「虐待にあたると思う」が最も多く 85.0%，「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は 98.6%に上った。「虐待にあたるとは思わない」は 0%であった。

表2-4-15 本来、大人が果たすべき役割(家事・育児など)を押しつけることがある

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	36	24.5	24.5	24.5
少し思う	56	38.1	38.1	62.6
あまり思わない	39	26.5	26.5	89.1
虐待にあたるとは思わない	16	10.9	10.9	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「少し思う」が最も多く 38.1%，「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は 62.6%であった。「虐待にあたるとは思わない」は 10.9%であった。

表2-4-16 自分の果たせなかった夢を子どもを使って叶えようとし、子どもに過剰な期待をかける

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	14	9.5	9.5	9.5
少し思う	78	53.1	53.1	62.6
あまり思わない	45	30.6	30.6	93.2
虐待にあたるとは思わない	10	6.8	6.8	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「少し思う」が最も多く 53.1%，「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は 62.6%であった。「虐待にあたるとは思わない」は 6.8%であった。

表2-4-17 養育者が、「自殺してやる」と言ったり、養育者自身の身体を傷つけたりして子どもを脅す

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 虐待にあたると思う	120	81.6	81.6	81.6
少し思う	19	12.9	12.9	94.6
あまり思わない	7	4.8	4.8	99.3
虐待にあたるとは思わない	1	.7	.7	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「虐待にあたると思う」が最も多く 81.6%，「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」は 94.6%に上った。「虐待にあたるとは思わない」は 0.7%にすぎなかった。

全体として、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」が最も多かった項目は「10. 子どもを常に怒鳴ったりののしったりする」及び「14. 子どもに対して、『お前なんて…』というような、存在を否定するような言葉をかける」で 98.6%，以下「7. 子どもが大切にしているおもちゃやペットを、わざと傷つける」97.3%，「4. 理由なしに、または理由を伝えずに子どもを叱る」及び「13. 子どもを人前で侮辱する」95.2%とつづく。

逆に、「虐待にあたると思う」と「少し思う」とを合わせた「思う」が最も少なかった項目は「3. 子どもの部屋に勝手に入ったり、勝手に持ち物をチェックしたりする」で 55.1%，以下「5. 子どもの仲のいい友達について、『あの子と遊んではダメ』などと言う」60.3%，「1. 機嫌が悪いときに、子どもの目の前で、机などのものにあたる」61.9%，「15. 本来、大人が果たすべき役割(家事・育児など)を

押しつけることがある」及び「16. 自分の果たせなかった夢を子どもを使って叶えようとし、子どもに過剰な期待をかける」62.6%，「9. 子どもが楽しみにしている家族の約束事（旅行・動物園・遊園地に行くなど）を養育者の気分により急に取りやめる」63.9%とつづいている。

3-5. 過去・現在の社会生活適応度

VI. これまでの経験についてお聞きます。以下のものであてはまる数字に○を付けて下さい。(○は1つ)

	非 常 に あ る	あ る	や や あ る	な い
1. 友達関係が築きにくい	1	2	3	4
2. 集団生活（学校・職場など）に困難を感じる	1	2	3	4
3. コミュニケーションに困難を感じる	1	2	3	4
4. 近所付き合いがない	1	2	3	4
5. 不登校だったことがある	1	2	3	4
6. 打ち込める何か（趣味など）がある	1	2	3	4
7. 摂食障害（拒食，過食など）の経験がある	1	2	3	4
8. 自分を傷つけるような行為（リストカットなど）をしたことがある	1	2	3	4

問VIは、「過去・現在の社会生活適応度」を測定するための尺度として構成された設問である。社会生活への適応の度合いを測るために設定された8つの質問に「非常にある」「ある」「ややある」「ない」の4件法で回答するように求めている。単純集計の結果は以下のとおりである。

表2-5-1 友達関係が築きにくい

有効		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
	非常にある	5	3.4	3.4	3.4
	ある	19	12.9	12.9	16.3
	ややある	46	31.3	31.3	47.6
	ない	77	52.4	52.4	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「ない」が最も多く52.4%，次いで「ややある」の31.3%，「非常にある」と「ある」と「ややある」とを合わせた「ある」は47.6%となっている。

表2-5-2 集団生活(学校・職場など)に困難を感じる

有効		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
	非常にある	9	6.1	6.1	6.1
	ある	18	12.2	12.2	18.4
	ややある	34	23.1	23.1	41.5
	ない	86	58.5	58.5	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「ない」が最も多く58.5%，次いで「ややある」の23.1%，「非常にある」と「ある」と「ややある」とを合わせた「ある」は41.5%となっている。

表2-5-3 コミュニケーションに困難を感じる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にある	7	4.8	4.8	4.8
	ある	17	11.6	11.6	16.3
	ややある	46	31.3	31.3	47.6
	ない	77	52.4	52.4	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「ない」が最も多く52.4%、次いで「ややある」の31.3%、「非常にある」と「ある」と「ややある」とを合わせた「ある」は47.6%となっている。

表2-5-4 近所付き合いがない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にある	25	17.0	17.0	17.0
	ある	29	19.7	19.7	36.7
	ややある	40	27.2	27.2	63.9
	ない	53	36.1	36.1	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「ない」が最も多く36.1%、次いで「ややある」の27.2%、「非常にある」と「ある」と「ややある」とを合わせた「ある」は63.9%に上っている。

表2-5-5 不登校だったことがある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にある	6	4.1	4.1	4.1
	ある	7	4.8	4.8	8.8
	ややある	10	6.8	6.8	15.6
	ない	124	84.4	84.4	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「ない」が最も多く84.4%、次いで「ややある」の6.8%、「非常にある」と「ある」と「ややある」とを合わせた「ある」は15.6%にすぎない。

表2-5-6 打ち込める何か(趣味など)がある

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常にある	41	27.9	28.1	28.1
	ある	50	34.0	34.2	62.3
	ややある	31	21.1	21.2	83.6
	ない	24	16.3	16.4	100.0
	合計	146	99.3	100.0	
欠損値	無回答	1	.7		
合計		147	100.0		

「ある」が最も多く34.2%、次いで「非常にある」の28.1%、「非常にある」と「ある」と「ややある」とを合わせた「ある」は83.6%に上る。

この項目は逆転項目であり、「ある」は「適応」を、「ない」は「不適応」を表す。この点を考慮すると、「ある=適応」(「非常にある」と「ある」と「ややある」とを合わせたもの)は83.6%、「ない=不適応」は16.4%となっている。

表2-5-7 摂食障害(拒食、過食など)の経験がある

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
非常にある	5	3.4	3.4	3.4
ある	8	5.4	5.4	8.8
ややある	10	6.8	6.8	15.6
ない	124	84.4	84.4	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「ない」が最も多く84.4%、次いで「ややある」の6.8%、「非常にある」と「ある」と「ややある」とを合わせた「ある」は15.6%にすぎない。

表2-5-5「不登校だったことがある」の場合と極めて似た数値になっている。

表2-5-8 自分を傷つけるような行為(リストカットなど)をしたことがある

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
非常にある	5	3.4	3.4	3.4
ある	6	4.1	4.1	7.5
ややある	8	5.4	5.4	12.9
ない	128	87.1	87.1	100.0
合計	147	100.0	100.0	

「ない」が最も多く87.1%、次いで「ややある」の5.4%、「非常にある」と「ある」と「ややある」とを合わせた「ある」は12.9%にすぎない。

全体として見ると、「非常にある」と「ある」と「ややある」とを合わせた「ある」が最も多いのは「4. 近所付き合いがない」で63.9%、次いで「1. 友達回答者が築きにくい」及び「3. コミュニケーションに困難を感じる」の47.6%となっている。

逆に、「ある」が最もすくないのは「8. 自分を傷つけるような行為をしたことがある」で12.9%、以下「5. 不登校だったことがある」及び「7. 摂食障害の経験がある」15.6%、「6. 打ち込める何かがある」16.4%（逆転項目なので「ない」の値）とつづいている。

3-6. 子ども時代・成人期における日常生活での満足度

VII. あなたの日常生活における満足度についてお聞きます。以下のもので、あてはまる数字に○を付けて下さい。(○は1つ)

非常
に満
足

やや
満
足

やや
不
満

不
満

<子どもの頃(18歳未満)のことについて>

- | | |
|---|---------|
| 1. 子どもの頃(18歳未満)の家庭生活について | 1-2-3-4 |
| 2. 子どもの頃(18歳未満)の学業成績について | 1-2-3-4 |
| 3. 子どもの頃(18歳未満)の学校における人間関係(クラスメイトや先生との関係)について | 1-2-3-4 |
| 4. 子どもの頃(18歳未満)の地域社会での人間関係について | 1-2-3-4 |
| 5. 子どもの頃(18歳未満)の友人関係について | 1-2-3-4 |

	非常に満足 やや満足 やや不満 不満
＜成人期（18歳から現在まで）について＞	
1. 18歳から現在までの家庭生活について	1-2-3-4
2. 18歳から現在までの学業成績や仕事状況について	1-2-3-4
3. 18歳から現在までの学校や職場における人間関係について	1-2-3-4
4. 18歳から現在までの地域社会での人間関係について	1-2-3-4
5. 18歳から現在までの友人関係について	1-2-3-4

本質問は、子ども時代及び成人期における家庭生活、学業成績・仕事状況、学校・職場の人間関係、地域社会の人間関係、友人関係についての満足度、つまり子ども時代及び成人期における日常生活に関する満足度を測定する目的で設定されたものである。「子ども時代」と「成人期」とに分けて、それぞれの項目について「非常に満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の4件法で満足度が計測できるように、設問が構成されている。

表2-6-1 子どもの頃(18歳未満)の家庭生活について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常に満足	40	27.2	27.2	27.2
	やや満足	60	40.8	40.8	68.0
	やや不満	26	17.7	17.7	85.7
	不満	21	14.3	14.3	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「子どもの頃の家庭生活」については、「やや満足」が最も多く40.8%、次いで「非常に満足」の27.2%となっている。「非常に満足」と「やや満足」とを合わせた「満足」は68.0%、「やや不満」と「不満」とを合わせた「不満」は32.0%となっている。

表2-6-2 子どもの頃(18歳未満)の学業成績について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常に満足	27	18.4	18.4	18.4
	やや満足	65	44.2	44.2	62.6
	やや不満	42	28.6	28.6	91.2
	不満	13	8.8	8.8	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「子どもの頃の学業成績」については、「やや満足」が最も多く44.2%、次いで「やや不満」の28.6%となっている。「非常に満足」と「やや満足」とを合わせた「満足」は62.6%、「やや不満」と「不満」とを合わせた「不満」は37.4%となっている。

表2-6-3 子どもの頃(18歳未満)の学校における人間関係(クラスメイトや先生との関係)について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常に満足	37	25.2	25.2	25.2
	やや満足	69	46.9	46.9	72.1
	やや不満	30	20.4	20.4	92.5
	不満	11	7.5	7.5	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「子どもの頃の学校における人間関係」については、「やや満足」が最も多く46.9%、次いで「非常に満足」の25.2%となっている。「非常に満足」と「やや満足」とを合わせた「満足」は72.1%、「やや不満」と「不満」とを合わせた「不満」は27.9%となっている。

表2-6-4 子どもの頃(18歳未満)の地域社会での人間関係について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常に満足	26	17.7	17.7	17.7
	やや満足	70	47.6	47.6	65.3
	やや不満	40	27.2	27.2	92.5
	不満	11	7.5	7.5	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「子どもの頃の地域社会での人間関係」については、「やや満足」が最も多く47.6%、次いで「やや不満」の27.2%となっている。「非常に満足」と「やや満足」とを合わせた「満足」は65.3%、「やや不満」と「不満」とを合わせた「不満」は34.7%となっている。

表2-6-5 子どもの頃(18歳未満)の友人関係について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常に満足	59	40.1	40.1	40.1
	やや満足	61	41.5	41.5	81.6
	やや不満	21	14.3	14.3	95.9
	不満	6	4.1	4.1	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「子どもの頃の友人関係」については、「やや満足」が最も多く41.5%、次いで「非常に満足」の40.1%となっている。「非常に満足」と「やや満足」とを合わせた「満足」は81.6%、「やや不満」と「不満」とを合わせた「不満」は18.4%となっている。

表2-6-6 18歳から現在までの家庭生活について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常に満足	50	34.0	34.0	34.0
	やや満足	60	40.8	40.8	74.8
	やや不満	26	17.7	17.7	92.5
	不満	11	7.5	7.5	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「18歳から現在までの家庭生活」については、「やや満足」が最も多く40.8%、次いで「非常に満足」の34.0%となっている。「非常に満足」と「やや満足」とを合わせた「満足」は74.8%、「やや不満」と「不満」とを合わせた「不満」は25.2%となっている。

表2-6-7 18歳から現在までの学業成績や仕事状況について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常に満足	26	17.7	17.7	17.7
	やや満足	69	46.9	46.9	64.6
	やや不満	42	28.6	28.6	93.2
	不満	10	6.8	6.8	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「18歳から現在までの学業成績や仕事状況」については、「やや満足」が最も多く46.9%、次いで「やや不満」の28.6%となっている。「非常に満足」と「やや満足」とを合わせた「満足」は64.6%、「やや不満」と「不満」とを合わせた「不満」は35.4%となっている。

表2-6-8 18歳から現在までの学校や職場における人間関係について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常に満足	44	29.9	29.9	29.9
	やや満足	66	44.9	44.9	74.8
	やや不満	29	19.7	19.7	94.6
	不満	8	5.4	5.4	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「18歳から現在までの学校や職場における人間関係」については、「やや満足」が最も多く44.9%、次いで「非常に満足」の29.9%となっている。「非常に満足」と「やや満足」とを合わせた「満足」は74.8%、「やや不満」と「不満」とを合わせた「不満」は25.2%となっている。

表2-6-9 18歳から現在までの地域社会での人間関係について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常に満足	22	15.0	15.1	15.1
	やや満足	68	46.3	46.6	61.6
	やや不満	45	30.6	30.8	92.5
	不満	11	7.5	7.5	100.0
	合計	146	99.3	100.0	
欠損値	無回答	1	.7		
合計		147	100.0		

「18歳から現在までの地域社会での人間関係」については、「やや満足」が最も多く46.6%、次いで「やや不満」の30.8%となっている。「非常に満足」と「やや満足」とを合わせた「満足」は61.6%、「やや不満」と「不満」とを合わせた「不満」は38.4%となっている。

表2-6-10 18歳から現在までの友人関係について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	非常に満足	75	51.0	51.0	51.0
	やや満足	51	34.7	34.7	85.7
	やや不満	16	10.9	10.9	96.6
	不満	5	3.4	3.4	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

「18歳から現在までの友人関係」については、「非常に満足」が最も多く51.0%、次いで「やや満足」の34.7%となっている。「非常に満足」と「やや満足」とを合わせた「満足」は85.7%、「やや不満」と「不満」とを合わせた「不満」は14.3%となっている。

全体を概観すると、「非常に満足」と「やや満足」とを合わせた「満足」が最も多かったのは「18歳から現在までの友人関係」で85.7%，次いで「子どもの頃の友人関係」の81.6%，逆に、それが最も少なかったのは「18歳から現在までの学校や職場における人間関係」で61.6%，次いで「子どもの頃の学業成績」の62.6%であった。

3-7. 家庭における印象・記憶に残っている出来事や思い出，及びアンケートについての自由記述

IX. [ご意見]

家庭におけるとても印象・記憶に残っている出来事や思い出などがございましたら，以下の中にお書き下さい。また，子どもの福祉についてのご意見や，今回のアンケートについてのご意見等もございましたら，併せてお願いします。

IX ご意見（自由記述）

- ・私は，“子育て”とは，本当に親の接し方が重要だと考えます。愛情は惜しみなく与えるけれど，過保護にしすぎたり，期待をかけすぎたりしないというのがポイントだと思います。私は自主性を重んじて，好きなことを自由にやらせてくれて，けれど頼りたいときには，思いっきり甘えさせてくれるという育て方をしてくれた両親にとっても感謝しています。母親が小学校の教師をしていたので，その辺を心得ていたのかなと思います。子どもは親の所有物ではないということも認めることも重要です。親の気分によって接し方を変えることもよくないことだと思います。がんばってください！（26歳 女性）
- ・子どもの前での親子ケンカは，子どもにとって非常に悪影響だと思います。未婚ですが，子どもの立場から，とても感じていました。（24歳 男性）
- ・私の家庭は，お金持ちでも貧困でもありませんが，普通の一般家庭よりもお金はありません。しかし周りから見た家族の様子をみても，誰もそのようには思いません。なぜなら，つらくてもみんな明るく笑顔で暮らしているからです。いつまでも暗い顔をして，人生楽しくありません。一度きりの人生なのだから幸せになりたいものです。
子どもの頃から，誕生日は家族でお祝いをし，遊びに出かけることもたくさんありました。今では両親に感謝しています。このアンケートが届いたときは驚きました。書こうか迷いました。しかし，少しでも子どもの福祉のために役にたてればと思い，ペンをとりました。私は今保育士になるために勉強しています。子どものために働きたい夢を叶えます。（20歳 女性）
- ・家庭における印象，記憶に残っている出来事や思い出にはいい思い出しか思い浮かびません。私が個人的に思うには，本当の虐待等にあっている方はこのようなアンケートには答えられないと思います。私の家庭は特に裕福ではないけれど，何一つ不自由なく育ててもらい今では感謝の思いでいっぱいです。冒頭のⅡのアンケートで，現在の状況を書いたのですが，今はむしろこのようなよい環境で育ててもらったにもかかわらず，何一つ取り柄のない自分に腹が立っている日々を過ごしているので少しマイナス評価にしました。情けない話です。今は会社を辞める事も含めて自分も何かひとつのことに打ち込めるものを探しています。この幸せだった環境を無駄にしないためにも…。子どもの福祉について，今回のアンケートにはあまり参考になるような内容ではなくてすみません。でも皆さんの研究は社会に大いに貢献できるものだと思います。これからもがんばってください。

私も皆さんに負けないうにがんばりたいと思います。(25歳 男性)

・私はとても恵まれた環境にあるし、両親もとても仲良く、何不自由ない生活を送ってきたし、現在も送っています。しかし、やはり、ツライことは記憶に残っているもので、両親のケンカは鮮明に覚えています。また、母親は幼い頃から片親で育ってきたせいとか、すごく短気で私にとってはすごく怖い存在です。普通の生活の中では問題ないのですが、たまに、一歩距離を置きたくなる時があります。(21歳 女性)

・ぜんぜん関係ないかもしれませんが、最近の子どもは平気で常識のないことをするのをよく見かけます。親も、子どもの前で自転車にあたって(ぶつかって)倒しても立て直すことはなく、歩いていきました。昔ほど親と子の関係はよくないように思います。だから叱るべきところで叱れずそういう子どもたちが増えるのではないのでしょうか？(27歳 女性)

・現在、スクールカウンセラーを設置している学校も多いと思うが、単に設置しているだけでは、子どもは周囲の目も気になり相談をしに行くことも難しいと思う。スクールカウンセラーのいる場所も、保健室のように行き易い場所になるようにしなければならないと思う。(25歳 女性)

・学校や地域社会で子どもが虐待されているのを知りながら、法律やさまざまな理由の為その子の命を助けてあげられなかったというニュースを度々聞きとても憤りを感じます。(27歳 女性)

・今住んでいるマンションの隣人のことですが、

旦那……35～40歳→無職、病気療養中

奥さん……25～35歳→夜の仕事(水商売)

祖母……70歳ぐらい→寝たきり

娘……3～4歳

毎日毎日旦那の怒鳴り声が朝から深夜(12時頃)まで聞こえている。娘を叱っているようだが、あまりにもガラが悪く虐待しているように見える。声をもともと大きいこともあり、マンションにも響いていて近所迷惑状態。旦那の口癖は、「こらー!」「ぼけー!」「いらんことするなと言っとるやろ、ぼけー!」子どもの泣き声もひどい。

「ベランダからつきおとしたろかー!!」というの聞こえたことがある。旦那も一日中家にいるようで、イライラしている感じに思えるが、子どもがかわいそうでならない。(28歳 女性)

・幼い頃に受ける親の影響はとても大きいと思います。社会で働く女性も増えていますが、愛情に飢えた子供が増えないように子供の福祉について考えて下さい。(25歳 女)

・アンケートの結果も教えてほしいと思います。とりっぱなしにされるととても気になります。(26歳 女)

・今の児童相談所はよくないと思う。機能を働かせてないのでは?親になぐられたりどなられたことはあるが、『しつけ』だったのだと思っている。(たまに理不尽におこられたけど(笑))だいたい、暴力としつけの境界線はどこにあるのか。(20歳 女)

・選挙人名簿から選んだ人にアンケートを依頼したということですが、選挙の名簿など公的なものがどうして出まわっているのか、疑問です。アンケートが必要な調査は、大学でされているのですから、卒業生を対象にやっていただきたいものです。(年齢不明 性別不明)

- 社会的に 21 歳となると大人として扱いを受けますが、親から見ると何才になろうと子は子供なようです。子供ではないと自分自身は思っていますが、私が権利をおかされたと思う時、もっと一般的に子供の権利などが親に当たる人達に広まればなと感じる時は多々あります。時々、家に届く「子供の権利」みたいな冊子やそれにあたるテレビを見ると、うちの母に見せたくになります。子供は親の所有物ではなく子は一人の人間なのだと言いたいです。

ランダムサンプリングお疲れ様でした。分析頑張ってください。(20 歳 女)

- 中学の頃に母親がキリスト教にのめり込み、それが原因で母が「うつ病」になった事。今回は選択肢に「子供の自由を奪う」という項目が無かったのですが。幼稚園に通っている頃から「教会」に連れて行かれるという「子供の自由を奪う」行為は、虐待にはならないのでしょうか…(24 歳 男)
- このアンケート企画で、よりよい「子どものための社会」になることを願っております。子どもにとって親は不可欠な存在だということを、もっと知らしめていかなければ、虐待はエスカレートするばかりだと思います。(21 歳 女)
- 私は両親に大切に育ててもらったと感じています。ですので、今回のアンケートのテーマである虐待にあたる体験をしたことがありません。あまりお役に立てる回答ができてないかもしれませんがすみません。(28 歳 女)
- 小さい頃からいろんな所に親ともあそびに行き、友だちにも恵まれてきました。子供ができた今、私が育った家庭を目標にたのしい思い出をたくさん作ってあげたいと思います。みんな苦しい思い出で産んだ子、かわいくないワケないんです。ニュースとかで虐待などを見ると悲しくなります…。小さくても 1 人前の人なんだもの、みんなが幸せに子供時代を送れるような世界になる事を願っています。(30 歳 女)
- 小学生の頃、親子でボール投げして遊んだ。汗をかいて走ったり、スポーツできる場所が(近所で)子育てには必要と考えます。今はあんまり走りまわって遊ぶ子を見ないです。(22 歳 男)
- 両親からたくさん楽しいことや思い出を作ってもらい、良い思いの感謝の気持ちは今も持ち続けていますが、警察ざたになったことや停学になったことなど、小中高と毎回、学校に母親を呼び出す様なことをし、悲しい想いをさせてしまっていたので、何とかその思い出を払拭させることが出来るような「恩返し」をしたいと常に念頭に置いています。(28 歳 男)
- 「うつ病」などのストレス等からくる精神疾患が子供(低年齢化)にも増えていると聞きます。それを防ぐための生活環境作りはありとあらゆるたくさんの項目があり、どれから改善していけば良いのか難しい問題だと思います。

まずは、精神疾病の認知度向上、精神科や心療内科の敷居を低くする。そして、病院外での“心のケア”をしてもらえる所を増設する。そうすることによって、精神に何らかの異常をきたす人が減少し、どういった生活環境(例えば、昔たくさんあった広場やグラウンドなど)が大切かということも分かってくるのではないのでしょうか。(28 歳 男)

- 「子供らしい子供」が減ってきているのは様々な要因(親や環境など)が影響していると思います。が、「子供の福祉」に何が必要かよりも、「子供の福祉」の必要のない「子供らしい子供」が育つ環境・社会をどう作っていくかとなってほしいものです。(28 歳 男)
- 私自身は両親に対する不満は全くありません。しかし、テレビで児童虐待などの事件を見ると心が

痛みます。親戚や近所の人（子供の頃に）などとコミュニケーションを取り、子供にとって大人の相談相手がいる環境になれば良いなと思います。（25歳 男）

- アンケートに答えていて気付いたのは自分はとてもいい両親に育てられたのだと分かった。怒られたり、時にはたたかれたりもしたが、ちゃんとした理由があったから別に暴力と感じたこともない。今、親と同じ年になり、自分を育ててくれていた事を考えると、両親は“大人”であったと思う。今の大人は名ばかりで精神的には子供なのだと思う。（29歳 女）

- 一時期母にどなられる時期がありましたが、それは家庭環境に変化があったためであり子供心に感じてたため、耐えることをしました。小学生にもなると感受性はつよく実情を把握することは出来ると思います。親が子に対しあきらかなバイオレンス等であればそれは虐待だと思いますが、ある程度ははっぱをかける意味があると思います。

子が苦痛と思うことがDVでしょうか…。マスコミでもDVについてはよく報道ありますが、不思議に思うことがあります。子に対する環境も大切ですが、感受性や理解力、耐える力をもつ子育てを教える場が必要となってきたように思います。（29歳 女）

- 四人兄弟で鍵っ子だった為、両親が共働きの場合、子供をある程度の時間まで預かってくれる場所の提供などがあればよいと今思います。（27歳 女）

- 自分の子供時代は家庭・学校・地域に恵まれているように思うが、一番近い実母とはよくもめた。大人になり社会に出ると与えられていた環境ではなく、自分で選択していく環境では充実している。子どもは、周りがどれくらい良い環境だとか理解者がいることで随分変わるのではないかと思う。実母には私に劣等感を与えられてきたが、たくさんの友人や話せる理解者のおかげで克服し、自分らしさが今は持てている。自分の子供にも自分が与える環境を常に気を配りたいと思っている。（27歳 女）

- 子どもの福祉は親の教育が第一と思います。子どもは親に愛されていることを実感した方がよいと思います。そのような親になれるように、親の環境を整えることが先決と思います。（27歳 女）

- 最近子どもの虐待の報道が多く、子どもの福祉についての意識が高まってきたのではないかと感じます。ただ、虐待の対応は後手にまわってしまうのが現状のようなので、もっと素早く、または予防的な取り組みができるような制度が必要だと思います。（22歳 女）

- 母親に不条理に怒られていた。小学校低学年から中学校まで続いた。馬乗りになり、手をふりかざしながら叱りつけてくる。頭をたたく。髪の毛をひっぱる。ランドセルなどを窓からなげすてる。それを下着姿で取りにほり出される。泣きながら土下座する私に「お父さんに言ったらゆるさん」と言っていた。踏みつけられたり…。他にも細々あるけど、それらの事を私自身、大阪に大学進学で来て親と離れて暮らすようになるまで忘れていた。思い出したとたん部屋から1歩も出れなくなり、食事もとれず泣きながらふるえていた。その後、友人などの助けにより持ち直した。親子関係は自分と親にしか変えられないと思って、これから自分が生きていくためにはここでちゃんと親と向き合わなくては、と思って何度も実家に帰ってそのことを話し合おうとしたが、母は「そんなおぼえはない」、父は「今が大事だから取り合えない」で、何もならなかった。その時に、もう1つ思い出したことがある。

自分が子供の頃、親に怒られる時に受けていた事があたりまえだと信じこんでいて、学校でクラ

スメイトと親の話をしている時に「あれ？少し他の家と違う」と感じ、普段から「お父さんに言ったらゆるさん」と言われていた私は、(とても良い子ですごしていた) 勇気を出して父に「お母さんにながられている」と言ってみた。すると父が母に「そんな事してるのか？」と問いつめた。母は「子供の言うことだから」と言い、父も「そうか」で話が終った。絶望した。子供の時の事で今でも傷になっている事はたくさんある。けど、私の場合、高校の頃に不登校になった事で親を傷つけている。(子供の頃から心のどこかで母を殺してやるという気持ちを持っており、高校の頃、実際にどん器で母の頭をなぐりつけた事もある) それに、子供の頃には理解できなかった母のヒステリーの理由(おそらく私の持病のこと、父の不在の多い事、など)も今ならなんとなくわかる。理屈は解るけど心に傷がある。

愛を感じるけど恐怖も感じる。そのムジユンみたいな所に今も(親も私も)苦しんでいる。親子関係はゴクシャクしたまま。単純に離れれば解決するわけではないし、かといってそこにばかり時間も気持も置いとけない。けど、良くなっているわけではない。そういう親子関係はおどろくほど周りにもある。表面的には問題がないように見えるのがヤバイと思う。その辺もなんとか社会面から良くなっていけば…と思う。あと、自分も同じ事をくり返していくのではと、とても不安。自分の気分の浮き沈みの激しさ(生活に支障をきたす程)が、子供の頃の事や家庭の問題が元なのかどうか、今でも確信がもてないでいる。確信できたからどうとは思わないが、私のように「おかしい」と気付かない、イヤな思いをした子供時代がはっきりとどのように自分に影響しているか、わからないでいる人がたくさんいると思う。それはキケンなので、まず本人が異常に気付けるように子供にも教育が必要だとおもう。(26歳 女)

- 勉強が大事！勉強くらいできないと…と育ててこられました。その中で、小学校時代に父にドリルが分からない、出来ない私に対し「何で、こんなものが分からないのか」と、怒鳴り、足を(太もも)叩かれ、とても涙した事を今でもついこの間のように覚え、「どうして分からないことを怒るのだろうか」や「今あんなに怒られた勉強役に立ってる？」と思ったり、悲しい思い出かつ怒りになっているような気がします。(29歳 女)

- 私は、昔の事で、精神科に通って5年になります。親の過保護が原因で、自己愛性人格障害という病をわずらっています。そして、その為頭のいい弟には、私に姉とは思ってないといわれ、うつ病にもなりました。ですが、少しずつ良くなってきています。両親も最近はずが仲が良いです。

字がとても乱ざつになってしまいましたすみませんでした。(20歳 女)

- 嬉しかった事はいつまでも覚えているもの。私自身、兄・姉が多いのですが、兄弟がいれば、それを見て育つし、親も過保護になったりしないのじゃないのかなと思う。今は親が子供すぎると思う。(25歳 女)

- 私は医療関係者で子どもに関わるところで働いています。母子家庭が増え、母子の福祉をうけている人が沢山いますが、母子と生活保護で多くの収入を得、働かない若い母親も多い。又、新たな相手の子を妊娠しても、福祉で収入を得るため入籍しない人が多々いる。こういう状況をみている子どもも成長に影響をおよぼすと思います。又、籍を入れず中途半端な関係のままというのも虐待が増える1つの要因ではないでしょうか。(27歳 女)

- 両親が自営業をしていたので忙しく、学校の親子行事などにほとんど来てもらえなかった。幼稚園

の遠足の時はみんな親とお弁当を食べている中、私一人が先生と一緒に食べていた。両親にはとても大切に育てられたのでその時は特にさみしいとかは思わなかったが、今から思えば心のどこかで私もみんなと同じように親に来てほしかったと思っていたような気がする。(23歳 女)

- 人見知りのはげしく小学生や幼稚園の頃、学校では全然人と話さない子でした。学校から出て外で居る時はおしゃべりだったんですが、なぜか学校の中では、すごく無口な子でした。よく自分は二重人格なのかと悩んだ事を覚えています。(22歳 女)
- 家族そろって食べる食事はいまだに大切だと痛感します。家庭が安定していないと外でも快くすごせないと常々思う。子育てがおかしい(虐待)若い親が増えているようなので、小さな命を傷つけないようこの分野もぜひ力を入れていってほしいと思いました。親でなくても姉でも兄でも、一人でも味方がいれば、子供は生きていけます。(21歳 女)
- 良好な家庭環境を作る為には、絶対的な親の像、高圧的で常に機嫌をうかがわなければならないような前時代的な父親像は子供に理解されないばかりでなく、大きな溝を作りかねない。かといって親が子に服従するような事があってはならない。家庭に必要なのは「尊敬できる人間」としての親であり言動なのではないか。(23歳 男)
- Vの親子関係に対する考え、「虐待」とは思えない項目もありましたが、全て、子供にとっては辛く悲しい事だと思います。(24歳 女)
- 子供の頃の経験は、大人になった現在に影響を与えるものだと、最近になって実感しています。父の会社の倒産、両親の離婚は、今の自分はかなり大きく深く心の中に何かを残しています。(24歳 女)
- 最近、虐待や子供の事件など、暗いニュースが多いので、将来、自分が子供を育てられるのかどうか、自信がありません。(24歳 女)
- こんなに「虐待」が世間で起きているのを聞くと、苦勞していたと思うのですが、母は私や兄弟に虐待なんてせずに育ててくれた事に、とても感謝しています。(24歳 女)
- 先日、NHK 何かの番組の講演会の場面で、子供をほめた回数と叱った回数で叱った回数が多い親の人に、ほめて育てましょうと言う人がいて、かなり共感しました。(21歳 男)
- 小さい頃に、こけてガスストーブを倒した時に、まずストーブの確認をされたことが悲しかった。(21歳 女)
- 中学時代、私は不登校だったのですが、その頃両親(特に母親)とケンカばかりしていて、家に居ずらかったのがとても記憶に残っています。寮のある高校に行き、両親と離れた事で私自身とても成長でき、今では中学時代がなつかしく思える程、両親とうまく行っているので良かったと思っています。(20歳 女)
- 今回のアンケートが届いた時ビックリして始めは怪しく疑っていましたが。…ごめんなさい。でも、このアンケートの主旨がとてもいいと思いました。私も少しでも協力できればと思い、アンケートを記入させて頂きました。(20歳 女)
- よく叱られていた記憶があるけど、別にグレたりはしてなかった。本当によく怒られた。理不尽なこともあったけど、自分に子供ができたなら大らかな目で見ようと思う。あと、小学校の先生に、「親のこと、こわいと思わずにうとうしいと思うようになったらあかんで～」って言われたのは

印象深い。

字汚くてすみません (20歳 男)

- p. 8の質問項目Ⅱ [親子関係における経験] に誤字がありました。× Ⅱ→○ Ⅲ (20歳 女)
- 私の場合、幼児～学童、児童まで、祖父母・父母・子(自分たち)3世代同居であり、家族構成が子どもなりに、見えていたと思う。今、よくテレビなどで、実親による虐待がとりだされているが、それはやはり母と子の2人暮らしだったり、親の離婚による新たな恋人の出現によるものだったり、孤独からくるものだったりすると思う。親自身が大人になってないなど…やはり日本という国の世の変わりが原因なのか?とも思う。親の勝手。また、近所付き合いもとても大切だと思う。ほんの少しの事でも他人に相談できない環境では、精神的に参ってしまうし、そのほんの少しの事を相談できれば、安心感というか、悩まなくて済む。都会では、近所づきあいがあまりないと思うが、様々な地域活動呼びかけ実施し、地域の輪を広げていく必要があると思う。そうすれば、たとえば、災害がおこっても、地域の住民の協力で防げることもあると思うから。(21歳 女)
- 福祉に興味があり、大学時代勉強し、施設実習にも1ヶ月行きました。けっきょく自分の心の穴をうめる物にすぎなかったと企業に就職しました。心の傷に福祉の勉強をはじめて、初めてというか、本当に自覚した。それまでは、そういう物であると思っていました。授業を受けられなかった事もあります。(27歳 女)
- 現在2人の子供がいますが、少子化が進んでいるようですが、私の周りの友人はみんな、もっと子供を産みたいそうです。私の所もあと一人、子供をつくる予定ですが、別にお金に余裕があれば、もっと子供を産んでもいいと思っています。でも、今は、ただでさえ子供を育てるのにたくさんのお金がいるのに親は習い事をたくさんさせたりしていて、これからのことが不安定だから、やはり、子供をたくさん産まないんじゃないかなと思います。私もこれからたくさん習い事とかさせようと思っていますが、子供が、学校以外に塾などに行かなくても、きちんとした教育ができるようにはならないのかな?と思います。やっぱり学校だけだと、子供が勉強してくれるか不安だから習い事をさせたりすると思うのですが、でも私は子供が、嫌がったら無理には塾とか行かせるつもりはないです。
子供は子供の人生なので好きに生きてほしいです。私は中卒で頭も良くないのでわけのわからないことを書いてる所があると思いますが、1番思うことは、こんなに私の周りも私も子供をもっとほしがってるのに産めない世の中なのかな?と思います。(23歳 女)
- IVの項目で、一応答えていますが私自身はそれほど不快な思いを受けた事もなく、どちらかといえば愛されて育ったと感じています。元々は幼稚園に勤めていたということもあり、親子関係の大切さはわかっているつもりですし幼児期は本当に大切な時期なので、一人ひとりの大人がしっかりわかかってほしいと思います。(27歳 女)
- 父親は短気な人なので、大声を上げたり、物や子供をたたく事もありましたが、親としても、人間としても尊敬できる相手だし、今でも仕事の事など相談にのってもらいます。(もちろん母も)もちろん児童虐待はあってはならない事ですが、なんでもかんでも虐待と結びつけてしまう今の風潮には疑問を感じます。身体に対する暴力よりも、精神面への暴力のほうが後の子どもの成長過程で、発達に及ぼす影響は大きいと思います。子どもの身体、精神、尊厳が傷つけない環境を作り、それ

を保持できるのが理想かと思います。

設問に関しては、極端な物が多かった様に思います。(26歳 男)

- 家庭において、子供の時にはほぼ不満がありませんでした。(小さいものは有りましたが)ただ新興住宅地・団地で育ちましたが、地域社会という関係が成立していなかったように思います。近所づきあいが少なかったり、地域の催し(夏まつり等)もあまりなかったです。近所の大人に怒られる事もありませんでした。核家族ばかりでお年寄が少ない所でした。もっと地域が密になって子育てに参加できれば、少しは虐待が減ると思います。(28歳 女)
- 子供をとりまく環境は様々なので、『虐待』という言葉が質問の内容に当てはまるかどうかは難しいと思います。

例えば、「親が、体が弱い」「叱った時のその場の状況」など、あらゆる事が関係してくるのではないのでしょうか？しかし、「近所のオジサンがいたずらを注意する」という行為が『虐待』と言われるようになってしまった時代である事も事実。この問題は本当に奥が深く、1つの真実になることは非常に難しいことと思いますが、少しでも、いい時代になるように祈るばかりです。

研究がんばって下さいネ！(26歳 女)

- 親が変わらなければ子どもは変わりません。親の教育を行うイベント、施設が必要だと思います。(25歳 女)
- 両親がとても仲良かったことが心に残っています(今は父は他界している)。(28歳 女)
- 実父が酔っている時に追いかけられたこと。(29歳 男)
- 高齢者の方と違い、子どもは国の援助や、周りの人に頼るしかないので、国の支援を確立させていく必要があるが、選挙権がないので、国の政策として高齢者福祉にかたよるという問題を考えていって欲しい。(29歳 男)
- もう少し文字を大きくし、アンケート形態を簡単にしないと、無作為に抽出した場合、解答してもらえないのでは？(29歳 男)
- 現在、有名国立大に通っている。そうなれたのは、生まれ育った環境、家庭に依るところが大きい。しかしその過程が正しかったとは一切思わない。だがやはり、ここで育たなければ不可能であったと思う。そういう意味で虐待虐待と、子供を傷付けるもの全てが悪だとは思わない。逆に子供を守りきってしまうことは、してはならないことではないだろうか。誰もが一樣に育つことはない。そしてそれが親になれば育て方も様々だ。もしその内の一つがある程度の成功へと導くものだったとして、それが何らかの規制によって制限されたとしたら、どうであろう。さらに、それによって子供が安全に育つことはできたが、特に特徴のない生活を送ってしまったとしたら。仮定ばかりで、こんなことが実際に起こるとは思えないが、しかし最終的にどうなるかは誰にも分からない。だからこそ、その時点では「悪」と呼ばれるものを全て駆逐するのは間違いだと思う。(21歳 男)
- 私は子供の頃母親と二人暮らしでしたが母の仕事が忙しいためほとんど祖父の所で暮らしていました。祖父の教育は厳しさもありましたが愛情も注いでくれました。今は子供がいませんが、これから子供ができれば同じ教育をしたいと思っています。私が思うその中でも「なるべく夕食は決まった時間にみんなで食べる(コミュニケーション、マナー)」「叱る所(特に時間のルーズ、うそ、人を傷つけた時)」「思いやりを見せる」他にも色々ありますが、愛情を注いでもらおうと怒られるから怖い

から悪い事をしないじゃなくその人の傷ついた顔が見たくない困らせたくないと思いました。(26歳 女)

- 幼稚園の頃、父が再婚し義母ができましたが、基本的に私や姉のための世話は一切してもらいませんでした。夕食は父や妹もいる為作っていたが、朝食・昼食や弁当を作ってもらった事はほとんどありません。又、義母の外出している間に、家中をそうじしておけ、とか炎天下の草むしり、風呂場の天井のカビ取りを命じられたりはしょっ中でした。小学校くらいのときはとにかく義母が怖く、理不尽なことも言われたりする為家の中ではほとんどしゃべりませんでした。しかし、そんな中でも私には同じような立場の姉や、亡くなった実母の実家、学校の友人などがいた為に、あまり家庭の状況を苦悩に思わずにこれたと思います。もし、こういった周りの人々がいなければ、正直、今の自分にはなれなかったと思います。子供というのは本当に無力です。中学生くらいからは、義母の存在をほぼムシする形で、私は対処しましたが、それもできず、ただ言いなりになる子や、おびえる子がいると思います。

周りの人間のほうからから、手をのばしてあげなければ救えない子たちがたくさんいると思います。ぎゃくたいで亡くなる可哀そうな子供が一人もいなくなるよう、大人が努力し、福祉の充実などを促進してほしいです。(27歳 女)

- (18歳の時) お父さん(別居中)が、お母さんと喧嘩して大暴れして、洗面所の扉のガラスをこぶしで割りリビングにあるもの全てをめちゃくちゃにして怒りで叫んでた。すごく恐かった。(21歳 女)
- 今の子供に対しての接し方が昔とはかなり変わってしまって、甘やかしすぎだと思う。家庭でも学校でももっと厳しかったように思います。今は何でもすぐに事件としての扱いが多く、子供を持つ私は、これからどう対処していこうか迷います。(特に学校の先生に。)(28歳 女)
- 親も心のゆとりが必要です。親子ケンカとぎゃくたいのさかい目がむずかしいです。(24歳 女)
- このアンケートは少し子供の意見ばかりを取り入れすぎていて、あまり意味のないアンケートのように思える。子供の一方的な意見だけでは何も始まらないと思う。でも、今は周囲の助けを必要とする子供がたくさんいると思うし、こうした活動は応援したいと思っています。私も、活動などしているわけではありませんが、児童虐待の本など読んだり、興味は持っていたので、このアンケートが少しでも役に立てば嬉しいです。(21歳 女)
- 幼少の頃、両親がよくケンカしていた事がすごく嫌で早く離婚してほしかったが子供が出来て今初めて離婚したことが悲しく思える。今の保育所は一時預かりしてくれる所も少なくどうしても用事がある時でも子供を連れて行かなくてはいけなくなる。預かれる人はいいが知り合いのいない人や親がはなれてる人はストレスになると思う。もっと地域に密着した託児所ではない保育ルームが欲しい。そうすれば母親の交流も出来るしいいと思う。(27歳 女)
- アンケートに答えていってみると、親から不快な言動を受けたことはあまりなかったのだなぁと思いました。いや、あったのだろうけれど一時的なもので私自身特に気を留めることもなかったのだとか、子を想ってした言動だったため後々不快と思わなくなった等の理由で、不快という記憶を現在もっていないのだろうと思います。その点で、両親の教育実践は的を得ていたのだろうと思います。特に印象的だったのは、小学生の頃、算数の計算を(いらなくなった紙などを使うのではなく)

机にじかに書いてやっていたのを父に発見されて、「そんな使い方をするために勉強机を買ってやったんじゃない」と激怒されたことです。結構物を粗末にすることが多かったのですが、それを認識させられました。また、成績優秀な姉に対しバカだった私を人はよく比較してきましたが、両親は一切区別することなくむしろ可能性を信じてくれました。おかげで結果的に高校も大学もいわゆる「優秀」とされる学校を出ることができました。結局、両親は干渉すべきときと信じてやるべきときとの舵取りをうまくやってくれたのだらうと思います。そして、これが実は一番難しいのではないのでしょうか。それがなかなかうまくできないから虐待や過干渉、逆に無関心や不干渉という事態が生じてしまうのだと思います。また、親が自身で責任を負おうとしないというもの問題です。小学校教諭をしている姉が、何でもかんでも学校に責任を押しつけてくる保護者が多いと嘆いていました。子どもをいかに育てるかという視点のみならず、親たちをいかに教育するかという視点こそが今求められているのだと思います。がんばって下さい！！(24歳 男)

- 母は子供に注意する時、すぐに反応がないと「10数えるうちに動かないとパッチンですよ。」と言って、よく数を数えていた。めったに叩かれたことはなかったし、叱られると胸にズシンと来て納得した反省もしたものだ。

幸せな子供時代を過したのではないかと思う。ただ、幼稚園から小学校の低学年の時に住んでいたマンションにいじめっ子がいた時は辛くて死にたいと思った時期があった。学校に行っても馬のりになって押さえつけられてなぐられたり、整列している時に後ろから足をけられたりして、たまらなかった。「なんでお母さん僕を生んだの？包丁で刺して殺して」と言っていない時は、母も一緒になって泣いた覚えがある。担任に訴えても「人間、どうしても好き嫌い、合う合わないがあるので、どんな相手ともうまくかかわって付き合っていく術を身に付けて欲しい」と言うばかりで何の解決も計ってくれなかった。そこで、それまで誰とでも仲良くして乱暴な事はいけないうちで母が「いじめるような嫌な子とは付き合わなくていい。やられたら負けてもいいからやり返さない。」と言うようになった。結局、すぐに強くなることはできず、転居して転校したのだが、段々と遅しくなれたような気がする。子供は親に愛されているという自信と安心があれば多少の事は乗り越えていけるものだと思う。(20歳 男)

- 貧乏なりに母がおやつを手作りしてくれたり、(一回だけだったが)一緒にパンを作ったことがすごくうれしくて楽しくて覚えている。(27歳 女)
- 子供に悪影響を与える要因は、両親から直接受けるものが多いのかもしれませんが、「家族の経済状況」という点も大きいと思います。金銭的に苦しいと他人と比べてどうしても自分はやりたいことができず、将来が制限されてしまうのだらうと感じ、未来に希望が見出せなくなってしまいます。確かに、そういう状況を作った親は悪いと思いますが、子供には責任はありません。経済的に苦しい家庭でも日本育英会奨学金のような教育を受けるための資金を援助してくれるような団体を積極的に作って欲しいと私は思っています。(25歳 男)
- 勉強に対して父親の干渉が強くて成績が悪いとすごくしかられた。父親は物理と数学が得意で教えるようとするのだが「こんなものもできないのか！」とけなされ続けました。父親が仕事から帰ってくる時間が恐怖でした。とにかく大学受験が終わるまで勉強に対して気の休まる日はありませんでした。(27歳 男)

・自分の両親も主人の両親も子供の頃、仲があまり良くなかったので、自分達は「そうはならないように」といつも心がけている。子供には「世の中お金だ」とは思わせたくないで、ほどほどに教育に力を入れている。

少子化が問題になっているなら、例えば出産費用、教育費などを軽減すれば少しは改善されると思う。(24歳 女)

3-8. 小活

「3. 回答者の回答状況－単純集計－」において最も重要な箇所は、Ⅲ.「親子関係における経験」の部分の集計結果である。既に、この部分の「個別」の集計結果については、「3-2. 親子関係における経験」のセクションで概観を試みているので、ここでは「親子関係における経験」の18項目の「全体」についての分析結果を紹介しておく。

表2-7-1 被害経験の有無(18項目の経験のうち1つでもあるか、全くないか)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	被害経験なし	28	19.0	19.0	19.0
	被害経験あり	119	81.0	81.0	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

表2-7-1は、Ⅲ.「親子関係における経験」の18項目の被害経験のうち、どれか1項目でも「1. 頻繁にある」「2. ときどきある」に○を付けた場合「被害経験あり」とし、「3. ない」以外の選択肢に○を付けていない場合「被害経験なし」として、「被害経験の有無」の度数と比率を見たものである。

これによると、「被害経験なし」の者の比率が19.0%、「被害経験あり」の者の比率が81.0%となっている。約2割の者は18項目の被害のどれも経験していないということになる。

表2-7-2 被害経験の多寡(0点=なし,1~4点=少しあり,5点以上=多くあり)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	被害経験なし(0点)	28	19.0	19.0	19.0
	被害経験少しあり(1~4点)	61	41.5	41.5	60.5
	被害経験多くあり(5点以上)	58	39.5	39.5	100.0
	合計	147	100.0	100.0	

表2-7-2は、Ⅲ.「親子関係における経験」の「被害経験の有無」欄における選択肢、つまり「1. 頻繁にある」「2. ときどきある」「3. ない」のそれぞれに2点、1点、0点という得点を与え、その得点をケースごとに合計し、その合計点が0点の場合「被害経験なし」、1~4点の場合「被害経験少しあり」、5点以上の場合「被害経験多くあり」と名づけ、それらそれぞれについて度数と比率を算出し表示したものである。なお、4点で区切ったのは、0点のケースを除いた1点以上のケースの分布が4点のところまで51.3%となり、ちょうどほぼ半数になっていることに基づく。

この表を見ると、「被害経験なし」19.0%、「被害経験少しあり」41.5%、「被害経験多くあり」39.5%となっている。「被害経験少しあり」61ケース、「被害経験多くあり」58ケースと両者のケース数が近似しているのは「被害経験あり」のケースをほぼ半分のところで分けしたことに拠る。

表 2-7-3 時期別、親子関係における経験数・経験率（18項目の総計）

時期	経験数（件）	比率（％）	子ども時代・成人期別（％）
小学校入学以前（0～6歳）	28	5.08	—
小学校低学年（7～9歳）	102	18.51	—
小学校高学年（10～12歳）	105	19.06	—
中学校時（13～15歳）	155	28.13	—
16～17歳（高校時）	89	16.15	86.93
18歳以上	72	13.07	13.07
合計	551	100.00	100.00

表 2-7-3 は、Ⅲ.「親子関係における経験」の「被害経験を受けた場合の時期」について、時期別に被害経験の総数を算出して、件数及び比率を表示したものである。

見られるとおり、時期別の被害経験の比率が最も高いのは、「中学校時」で 28.13％、次いで小学校高学年の 19.06％、以下「小学校低学年」18.51％、「16～17歳（高校時）」16.15％、「18歳以上」13.07％となっている。

「小学校入学以前」～「16～17歳（高校時）」を「子ども時代」、「18歳以上」を「成人期」とした場合、「子ども時代」が 86.93％、「成人期」が 13.07％となり、「子ども時代」が 9 割弱を占めている。

[未完]

[付記]

1. 引用文献欄は、[I] の引用文献を含む。
2. 本稿は大阪樟蔭女子大学特別研究助成費による研究成果の一端である。

[引用文献]

- 全国児童相談所所長会, 1997, 『全児相：通巻 62 号別冊～全国児童相談所における家庭内虐待調査結果報告』全国児童相談所所長会事務局。
- 堀洋道監修／松井豊編, 2001, 『心理測定尺度集Ⅲ－心の健康をはかる〈適応・臨床〉』サイエンス社。
- Baily, T. F. & W. H. Baily, 1986, *Operational Definition of child Emotional Maltreatment: Final Report* (National Center on Child Abuse and Neglect, DHHS Publication No. 90-CA-0956), Washington, DC: Government Printing Office.
- Gabarino, J., E. Guttman & J. Seely, 1986, *The Psychologically Battered Child*, San Francisco: Jossey-Bass.
- Hart, S. N., R. Germain & M. R. Brassard, 1987, "The Challenge: To Better Understand and combat Psychological Maltreatment of Children and Youth," Brassard, M. R., R. Germain & S. N. Hart eds., *Psychological Maltreatment of Children and Youth*, New York: Pergamon, 3-24.
- Hart, S. N. & M. R. Brassard, 1991, "Psychological Maltreatment: Progress Achieved," *Development and Psychopathology*, 3: 61-70.
- McGee, R. A. & D. A. Wolfe, 1991, "Psychological Maltreatment: Toward an Operational Definition," *Development and Psychopathology*, 3: 3-18.
- Miller-Perrin, Cindy and Robin Perrin, 1999, *Child Maltreatment: An Introduction*, the United State, London

and New Delhi: Sage Publications, Inc.. (=2003, 伊藤友里訳『子ども虐待問題の理論と研究』明石書店.)

Straus, M. A., S. L. Hambly, D. Finkelhor, D. V. Moore & D. Runyan, "Identification child Maltreatment with the Parent-Child Conflict Tactics Scales: Development and Psychometric Data for a National Sample of American Parents," *Child Abuse and Neglect*, 22: 249-270.

The Actual Conditions of Psychological-Emotional Abuse: The Report of the Social Research on Osaka Community [II]

Osaka Shoin Women's University
Yoshiyuki ISHIKAWA

ABSTRACT

This paper (includes part I) is the report of the simple classified total findings of the survey by questionnaire on psychological-emotional abuse, which was conducted on 2,000 men and women aged from 20 to 29 in Osaka. The sampling method is the stratified two step random sampling. The survey method is the postal survey by the householder method. The survey period is 2004.11~2005.3. The total of valid respondents in 2,000 is 147 people, and the rate of response availability are 7.35%.

The chapters of this paper (includes part I) are 0. Introduction, 1. The outline of carrying out our survey, 2. The properties of our respondents, and 3. The questions in the questionnaire and the content of responses: the findings from simple classified total.

The main findings from the simple analyses of our data are as follows:

① the presence or absence of damage suffered by psychological-emotional abuse; the percentage of the victims of psychological-emotional abuse is 81.0% and that of the non-victims is 19.0%.

② the quantity of damage suffered by psychological-emotional abuse; the percentage of the non-victims is 19.0%, that of victims affected by a little damage is 41.5%, and that of victims affected by a great deal of damage is 39.5%.

③ the period for which the victims suffered damage; the percentage of the victims who suffered damage in their childhood is 86.9% and that of the victims who suffered damage in their adulthood is 13.1%.

We will some time later report the findings showed by the analyses beyond simple tabulation: e.g. chi-square test, *t*-test, analysis of variance and multivariate analysis.